

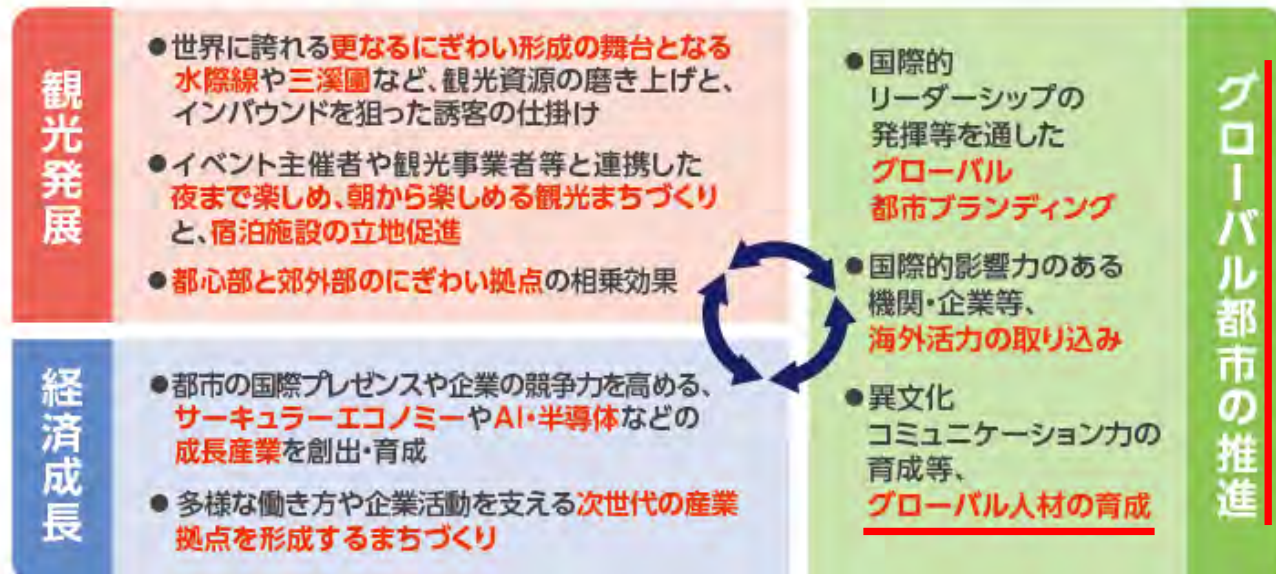
グローバル人材育成にかかる 本市の取組の方向性について

横浜市中期計画 明日をひらく都市プロジェクト

▶「観光・経済活性化」の方向性

観光の発展は、横浜の経済成長に資する取組であり、また、国内に加えて海外からの誘客が重要な要素です。さらに、サーキュラーエコノミーなどを通じた環境共生と経済成長の両立への挑戦は、グローバルな都市課題の解決につながり、横浜の国際的リーダーシップを発揮する取組です。

このように、「観光発展」、「経済成長」、「グローバル都市の推進」は一体的に取り組むことが重要であり、3つの取組の連動を通じて、都市の魅力・活力と国際プレゼンスの向上を図ります。



グローバル都市の推進に向けた戦略

グローバル人材育成

全てのこどもが、多様な他者と英語でコミュニケーションをとる可能性を広げるとともに、横浜のネットワークを生かした交流等を通して、グローバル社会で活躍できる人材を育みます。さらに、留学など世界を目指す若者を応援します。

グローバル都市ブランディング

グローバル都市としてのリーダーシップを発揮するとともに世界目線の政策を実行し、国際プレゼンスの向上を目指します。



海外活力の取り込み

横浜の活力を高めるため、国際的に影響力のある機関やグローバル企業、教育研究機関の誘致や新たなパートナーシップ締結を目指します。

3つの柱を連動させることにより、相乗効果を生み出すのが、横浜ならではの特徴

世界での認知度が高まり 選ばれる都市になる

横浜の活力が高まり、
都市の持続可能性が高まる

世界をより身近に感じ 世界とつながる

市民一人ひとりのライフステージ
における選択肢や可能性が広がる

グローバル人材育成にかかる取組の例

▶国際会議への若者の参画や国際機関と連携した人材育成を推進

TICAD9を契機とした学生プロジェクト (R7)

第9回アフリカ開発会議(TICAD9)に向け「横浜からアフリカにつながる学生プロジェクト」を実施。約100人の大学生等が18のグループに分かれて半年間ディスカッションを重ね、アフリカが抱える課題の解消に向けたアイデアを約3分の動画にまとめて発表。



市内にある国連機関と連携した意識啓発 (R8)

市庁舎で開催された「わくわく！こども夏まつり」において、国際農業開発基金(IFAD)や、IFAD Youth Club Japan(IYCJ)等と連携し、「食」と「世界の課題(SDGs)」を、子どもが楽しく体験できるコーナーを出展。



APCCフォーラムへの若者の参画 (R8)



「アジア太平洋循環型都市フォーラム(APCCフォーラム)2026」において、若者の挑戦を支える機会について議論を行い、その具体的な取組として「横浜からアジア太平洋に広がる学生プロジェクト」を立ち上げ。

本プロジェクトは、2027年に横浜で開催される第9回アジア・太平洋都市フォーラム(APUF-9)を見据えた、若者1万人が未来の都市を考えるAPUF Voices of the Futureの一環として実施。

教育委員会事務局における 次世代育成の取組について

- ・グローバル人材育成
- ・横浜の部活動

第5期横浜市教育振興基本計画 2026-2029

横浜の教育が目指す人づくり

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

(横浜教育ビジョン2030)

子ども一人ひとりが「未来」を創るために必要なこと

「今」の子どもたちは、

インターネットを利用して人や世界とつながっている／SNS等をきっかけとした事故等も10年で約3倍

これから子どもたちが羽ばたく「未来」は、

世界と瞬時につながり影響し合う社会 × 地球規模の課題解決が求められる、不確実性が高い社会



自らの人生を舵取りするたくましさ

世界の人たちと出会ってともに新しい価値を創り出そうとする力

多様性や変化を受け止め、可能性を最大限に広げるしなやかさ

施策 1 異文化コミュニケーション力の育成

背景

開港以来、国内外から人が集い、常に新しい技術や文化を積極的に取り入れる進取の精神が育まれてきた国際都市横浜では、自国の文化を大切にするとともに、国際理解教育の推進に取り組んできました。

目標・方向性

地球規模の課題解決に向け、世界の人たちと出会い、ともに新しい価値を創ることができるよう、異文化と出会う意欲を高め、多様性を尊重し、英語等によるコミュニケーション力や合意形成を図る力を育成します。

主な取組

英語教育の更なる充実

- ・ AET
- ・ 小1からの外国語活動

国際理解教育の推進

- ・ 国際平和プログラム
- ・ 国際理解教室



施策 2 自分を創り、社会を創造する未来の創り手の育成

背景

全ての教育活動において協働的な学びを重視するとともに、「自分づくり（キャリア）教育」や「SDG s 達成の担い手育成」に取り組み、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、体験を通じた学びを重視しています。

目標・方向性

自分の人生を主体的に創り、社会とのつながりを意識して行動し、共創につなげることでできる未来の創り手を育成します。

主な取組

自分を創り、社会を創造する未来の創り手育成の一体的推進

- ・ はまっ子未来カンパニープロジェクト
- ・ SDG s 達成担い手育成（ESD）



横浜standard は、3つの体験値を高める取組を、三層空間を活用し進めることで、グローバル時代を生き抜く人材を育成します。

体験 3つの体験値

手段 三層空間

目標 グローバル人材像



英語等による
コミュニケーション



地球規模課題に係る
多様な人との協働

リアル

オン
ライン

バー
チャル

- ✓ 英語等で相手の考えを知り、自分の考えを伝えられる
- ✓ 地球規模の課題解決、価値創造に向け協働で行動できる
- ✓ 異文化空間にも好奇心を持って飛び込むことができる



言語や当たり前が通用しない
異文化空間へのチャレンジ

3 異文化に飛び込む体験

異文化空間体験

留学等異文化空間に飛び込む意欲

グローバルへの不安を軽減する
異文化コミュニケーション機会の増



1 多様な人と考えを伝え合う体験

コミュニケーション体験

英語力を基礎に対話共感する能力

授業とAIドリル等の連携で育まれる
グローバルなコミュニケーション力



AI英会話
AIドリル
横浜
ラウンド制

AET

小1からの
外国語活動

市立高校の
長期留学
はまっこ留学
Yokohama
English Quest
イングリッシュ
インターン
英語村
SEPro/G
IUI
AET

2 地球規模の課題を協働で解決する体験

地球的思考体験

地球規模の課題を考え行動する経験

グローバルな視点を踏まえた、
協働による価値創造機会の拡張



サークュラー
エコノミー
GREEN×EXPO
2027

国際平和
プログラム
はまっ子未来
カンパニー
プロジェクト

3 異文化に 飛び込む勇気

1 多様な人と考えを
伝え合う力

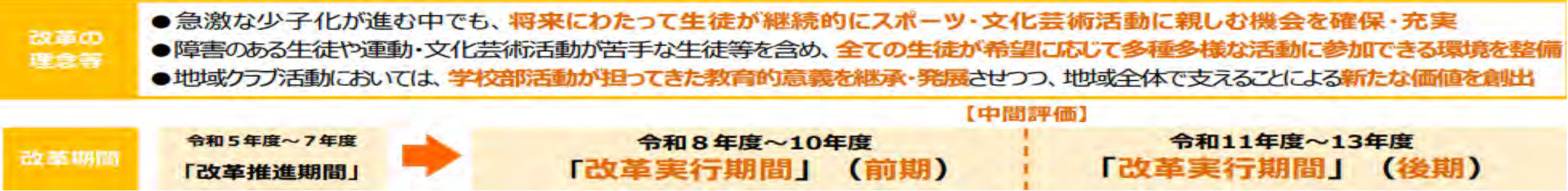
2 地球規模の課題を
協働で解決する力

全市立校の
児童生徒

横浜の部活動

■国の動き

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の概要



■第5期横浜市教育振興基本計画 <柱1 施策3（健やかな体の育成）>

部活動は、生徒が自らの興味・関心に応じて活動できるだけでなく、異年齢の仲間や教職員との関わりを通じて人間関係を築き、自己肯定感や協調性、責任感などを育む教育的意義の高い取組です。

部活動の価値を維持・発展させながら、持続可能な活動環境の構築に向けて部活動改革を進め、生徒が将来にわたりスポーツや文化活動に親しめる環境づくりを進めるとともに、教職員の負担軽減や部活動の持続可能性の向上を図っていきます。

【主な取組】

- ・部活動指導員等の地域人材活用による指導体制の充実
- ・企業・大学・地域団体等と連携した指導者の確保・育成
- ・大会運営へのボランティア活用
- ・将来的な地域展開等に向けた研究・検討
- ・「横浜市立学校部活動ガイドライン」の遵守徹底

【指標】

想定事業量	直近の現状値	目標値
中学校の部活動指導において、団体・企業・大学等と連携している学校数	19校	全校
市総合体育大会における熱中症対策等へのボランティアの活用	3大会	全18大会
部活動コーディネーター*の派遣校数（累計）	25校	全校



部活動指導員による指導

■本市の部活動の現状（R7）

※市立中学校全生徒数（R7現況調査）：74,966名

	運動部	文化部	合計
加入生徒数	42,703名	16,883名	59,586名
加入率	56.96%	22.52%	79.48%

■部活動指導員の推移

※令和8年度は9/1時点

	令和元年度	令和7年度	令和8年度
延べ人数	147人	989人	882人
配置校数	88校	145校	144校
増 減	—	842人	▲107人

■部活動数政令市比較

出典：令和7年度京都市調査による

横浜市	名古屋市	京都市	大阪市	神戸市
146校	111校	72校	130校	82校
3,044部 1校あたり 20.8部	805部 1校あたり 7.5部	1,028部 1校あたり 14.3部	1,606部 1校あたり 12.4部	1,081部 1校あたり 13.2部

にぎわいスポーツ文化局所管事業における 次世代育成の取組について

Live！横浜2026での次世代育成

Live！横浜は、みなとみらい21地区を中心とした音楽施設の集積を活かし、民間の大規模興行と連携して一体的に開催する、音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバル。プロアーティストによる指導や特別ステージでの発表などにより、こどもたちに特別な体験価値を提供するとともに、「音楽の街・横浜」の魅力を発信。第2回の開催となった令和8年度は、民間の大規模音楽フェス「CENTRAL」と連携して開催。

【R8実績】 日程：令和8年4月3日(金)、4日(土)、5日(日) 場所：みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部
来場者数：約240,000人 こどもの発表人数：約2,300人 こどもの体験人数：約10,000人（事前ワークショップ参加人数約800人含む）

「Live！横浜」及び「CENTRAL」における発表機会の主な取組

市民公募ステージ

こどもから大人まで、
公募で選ばれた多くの
市民の皆様が参加
（こどもの発表：754人
※大人を含めた総出演
者数は3,330人）



「全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜」 連携プログラム

毎年横浜で開催される
吹奏楽の全国大会に出
場した、実力ある市内
の高校吹奏楽部が演奏
（発表：283人）



「CENTRAL」連携ステージ

Live！横浜のステージに
出演するこどもたちが、
臨港パークに設置された
CENTRALの会場でダンス
パフォーマンス
（発表：40人）



プロアーティストの指導・共演による体験・発表機会の主な取組

中学校吹奏楽部×横浜市消防音楽隊 ワークショップ&コンサート

消防音楽隊が市内中学校
吹奏楽部で指導、その成
果をLive！横浜の合同演奏
で披露
（体験：延べ416人、
発表：400人）



「List::X」×「Live！横浜」 スペシャルプログラム

ダンスチーム「List::X」
の現役Dリーガーが指導、
その成果をLive！横浜の
合同発表で披露
（体験：延べ171人、
発表：57人）



民間企業等と連携した体験機会の取組

楽器体験・スポーツ体験イベント等

様々な民間企業や団体と
連携し、楽器体験やス
ポーツ体験、アート体験
等のイベントを実施
（体験：約9,000人）



スポーツ体験分野での次世代育成

スポーツ振興の取組として、こどものスポーツ体験機会の充実や働く世代・子育て世代が安心してスポーツに取り組めるイベント等を実施しています。

第3期横浜市スポーツ推進計画 (R4.4月策定)

- ◎取組3
「働く世代と子育て世代の親と子を楽しむ
スポーツの充実」
- ◎取組4
「児童生徒がスポーツを楽しむ機会・場の充実」
- ◎取組12
「インクルーシブスポーツ等の推進」
- ◎取組18
「トップスポーツチーム等と連携したスポーツ
の魅力発信」
- ◎取組20
「大規模スポーツイベントの誘致・開催支援」
など

子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業

親子でのスポーツ体験 (R5開始)

子育て世代が安心してスポーツに取り組める環境を作るため、託児サービス付きイベントに加え、ピククルボール体験会など親子で楽しめるイベントを開催。

(R8:20回実施予定)

よこはまこどもマリン スクール (S60開始)

帆船日本丸を活用し、日常とは異なる集団生活による船員活動体験や、海や船に関する学習・訓練を通じて心身を鍛える取組。

(R8:小学4～6年生72名が参加)

未就学児ラグビー体験 (R元開始)

ラグビーワールドカップ2019™日本大会のレガシーとして、幼少期からのラグビー文化の醸成やスポーツに親しむきっかけづくりとして、未就学児を対象としたラグビー体験事業を実施。

(R8:13保育園で実施予定)

インクルーシブスポーツ推進事業

YOKOHAMAスポーツ・レクリエーション フェスティバル (S63開始)

スポーツの日を中心に横浜市全域で広く市民が気軽に参加できるスポーツイベントや体験教室を開催し、年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが共にスポーツに親しむ機会を創出。

(R8:スポーツの日(10/12)に中央イベントを開催)



ボッチャ大会の様子



学校訪問事業の様子

学校訪問事業 (H30開始)

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、さらなるスポーツ振興につなげるため、パラアスリート学校訪問やJOCオリンピック教室などを開催。

(R8:119校で実施予定)

文化体験分野での次世代育成

こどもたち誰もが日常的に文化に触れることができるように、体験機会の提供を充実させています。

横浜未来の文化ビジョン

(R8.6策定)

ビジョン1「誰もが自分の夢に向かって進めるまち」

1-1 ■ こどもたちの文化体験機会の提供
家庭環境に関わらず、こどもたち誰もが日常的に文化や創造性に触れる機会を提供

こどもの文化体験推進事業の主な取組

こどもアートセンター
(R8開始)

放課後や休日に身近な地域で気軽に立ち寄れる場所での文化体験提供事業を支援
R8年度：6事業実施

こどもの文化体験推進事業
(R6開始)

放課後キッズクラブや放課後児童クラブ等で夏休みなどに文化体験機会を提供
R8年度：72箇所を実施予定

芸術文化教育プログラム推進事業 (H16開始)

小中特別支援義務教育学校の授業で、音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能のプログラムを提供
R8年度：131校で実施予定

各文化施設での主な取組

みんなのフリーゾーン
(横浜美術館)

自発的な意欲を育むことを目的に、こどもと保護者が一緒に描いたりつくったりする場を提供
R8年度：35回実施予定

こどもの日コンサート
(横浜みなとみらいホール)

中学生がプロデューサーとなり、コンサート制作の様々な業務を行う
R8年度：5月5日に実施

創造都市の取組

東京藝大地域貢献事業
(東京藝術大学大学院映像研究科)

こどもを対象に、学生が制作した参加型映像作品による体験やワークショップを実施
R8年度：8月29日に実施



みんなのフリーゾーン活動の様子 撮影：加藤甫

各会派が実施した行政視察一覧

次世代活躍推進委員会資料
令和 8 年 9 月 2 8 日 (月)

視察月日	視察会派	視察先及び視察項目
6 月 23 日 ～ 24 日	立憲民主党	山形県山形市 山形市における部活動の地域移行・地域連携の取組について
		山形県 山形県におけるこども・若者の文化芸術活動を通じた能力発揮と社会参画の推進について
7 月 21 日 ～ 22 日	公明党	鳥取県鳥取市 (1) 鳥取市における休日の部活動の地域展開について (2) とっとり若者地方創生会議の活動について
		鳥取県 とっとり若者活躍局の取組について
8 月 19 日 ～ 20 日	自由民主党	愛媛県松山市 まちづくり提案制度（次世代育成支援事業）について
		F C 今治高等学校里山校（愛媛県今治市） F C 今治高等学校里山校の取組について